

1

経営概況

- ① 経営方向感
- ② 主な取り組み
- ③ 3つの成長戦略

2

事業概況

- ① 二輪車事業
- ② マリン事業
- ③ 特機・他事業

1

経営概況

- ① 経営方向感
- ② 主な取り組み
- ③ 3つの成長戦略

2

事業概況

- ① 二輪車事業
- ② マリン事業
- ③ 特機・他事業

経営方向感 「持続的成長・企業価値向上」

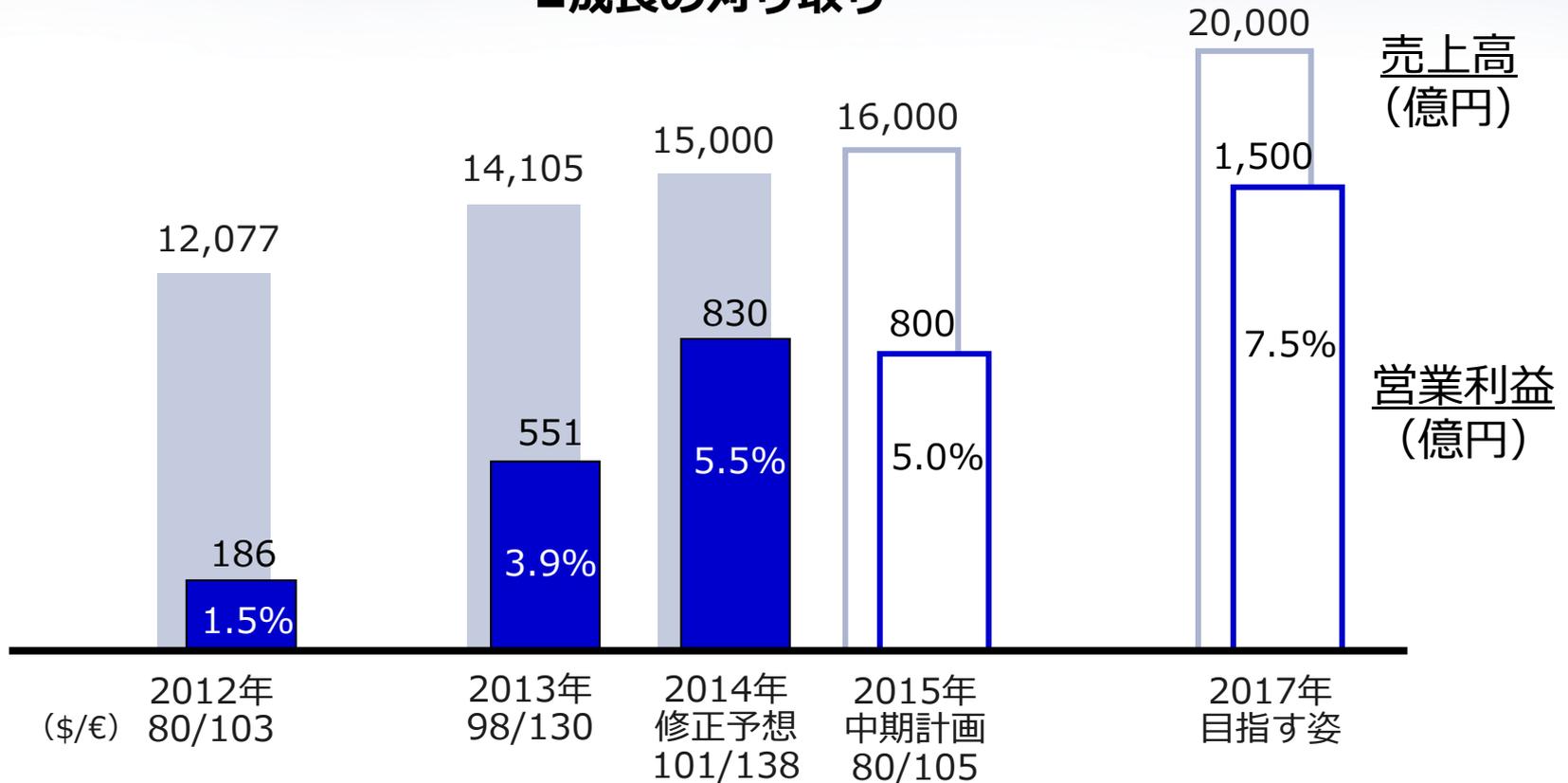
V字回復・
安定的収益体質づくり

- 構造改革
- 成長の布石

持続的成長による
企業価値向上

- 商品競争力
- 構造改革
- 成長の刈り取り

売上高 2兆円へ

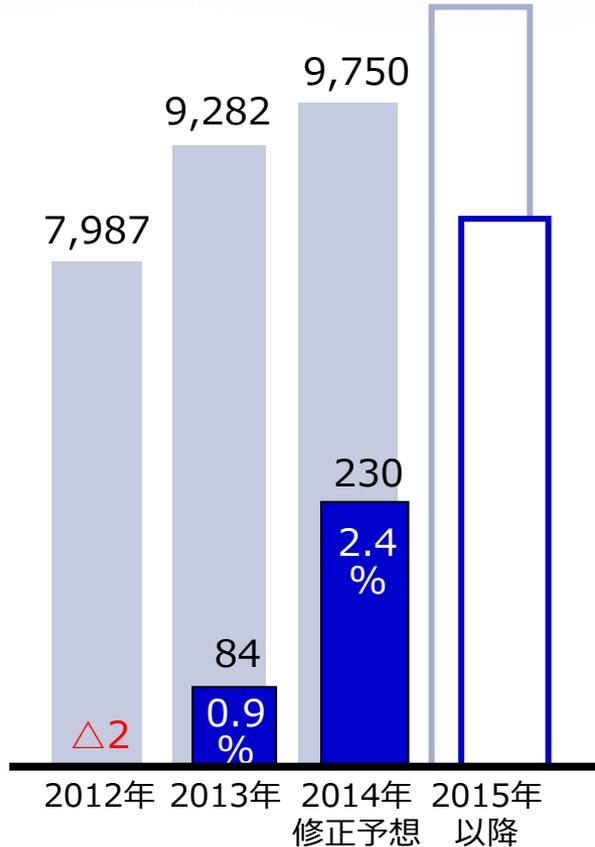


事業方向感

「2015年 更なる増収・増益、 2016年 次期中期計画へ」

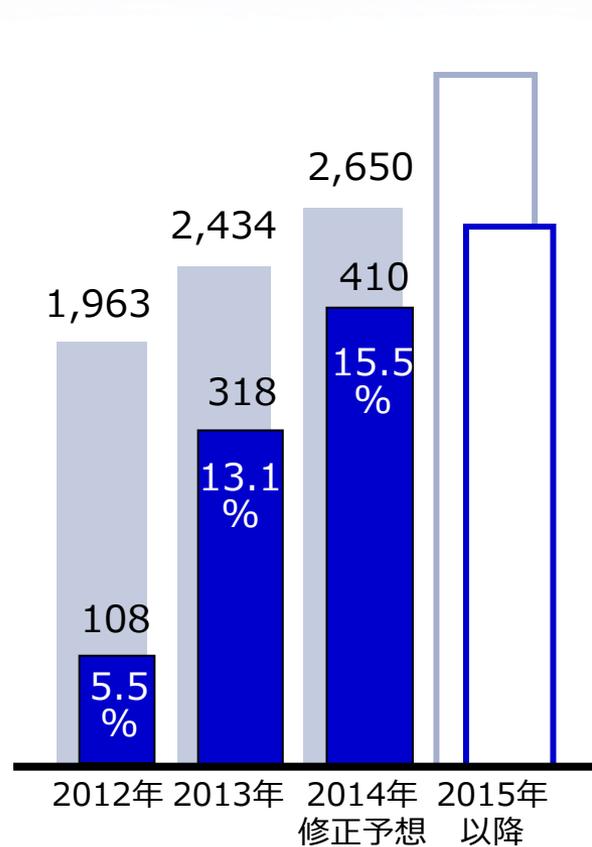
二輪車事業

- ・ 売上規模1兆円+
- ・ 安定的収益体質を目指す



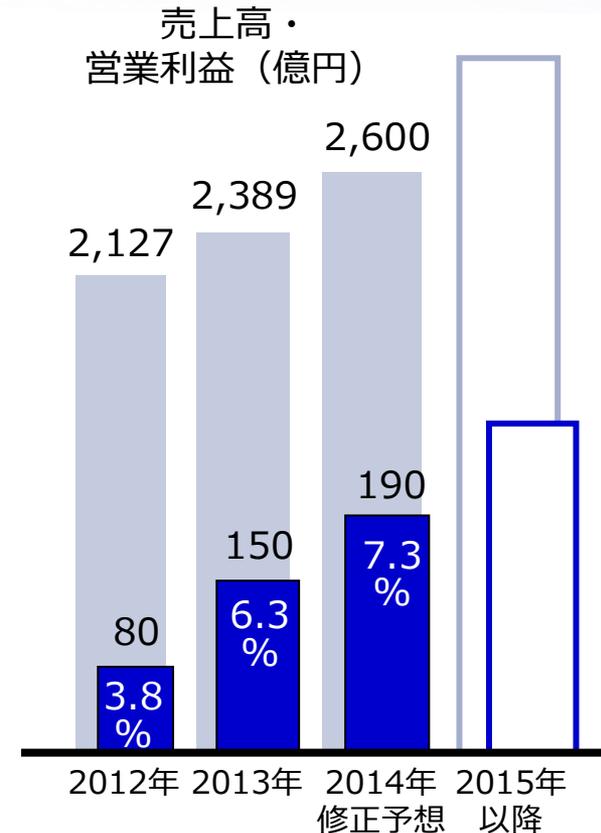
マリン事業

- ・ 売上規模3000億円+
- ・ 高収益体質をつくり続ける



特機・他事業

- ・ 売上規模3000億円+
- ・ 安定的⇒高収益体質を目指す



主な取り組み

「商品競争力：
3 + 1のヤマハらしさ」

発

独創的なコンセプトを提案する

悦 信

卓越した技術を実現する

魅

洗練された躍動美をデザインする

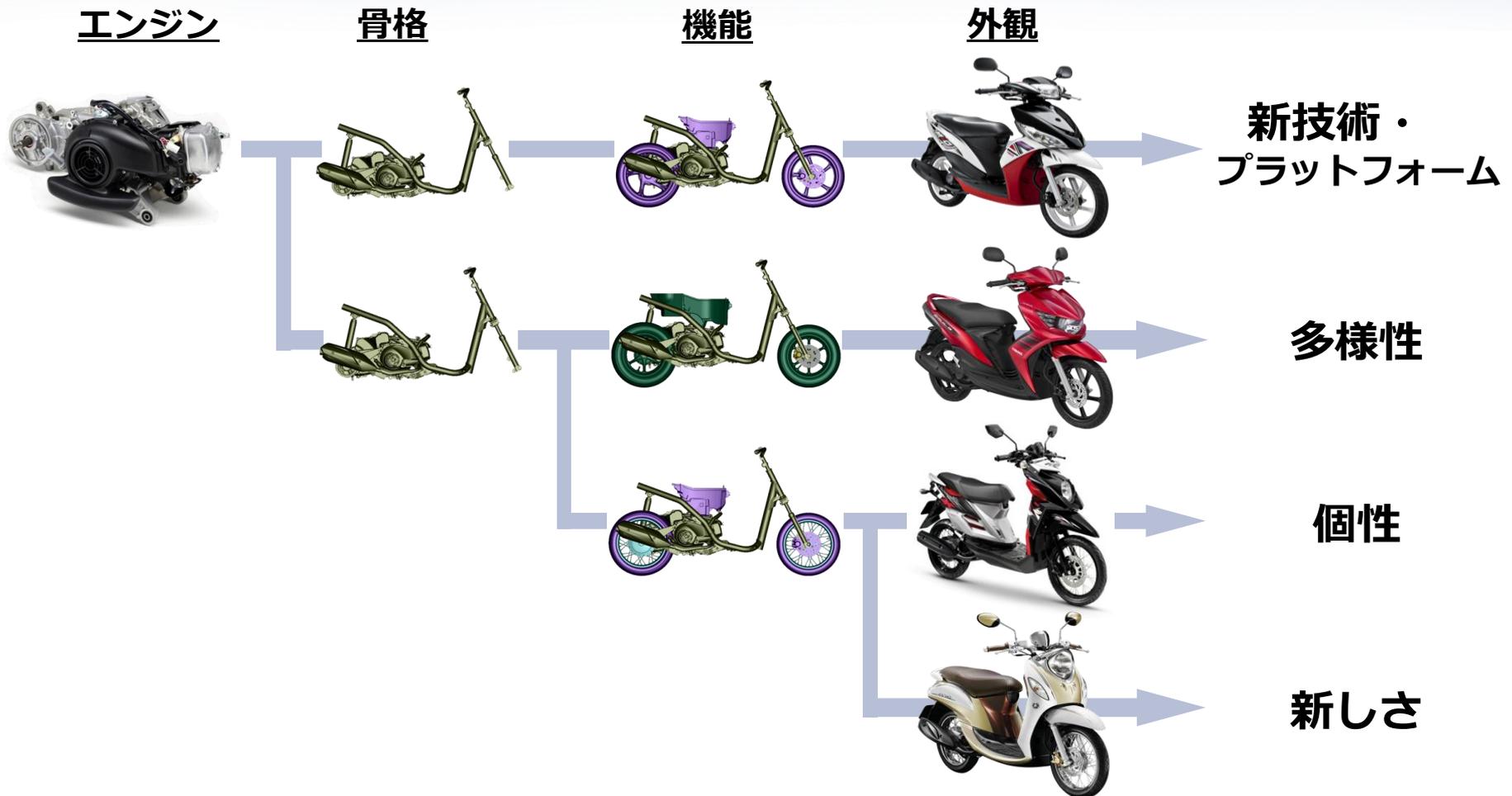
+

絆

現地・現場でお客様と強い絆をつくる

主な取り組み 「モノ創りが変わる：プラットフォーム開発」

- 日本：高い競争力を創る「新技術・プラットフォーム」開発
- 海外：多様性・個性・新しさを創る「市場適合モデル」開発



主な取り組み

「モノ創りが変わる： 製品集約・重点コストダウン」

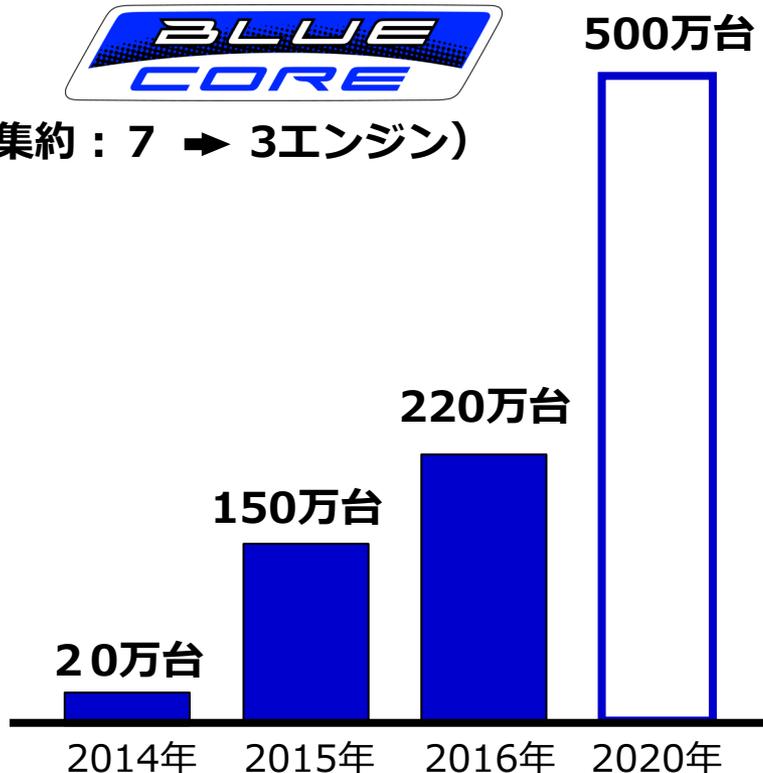
製品集約

プラットフォーム化

(事例) 次世代エンジン



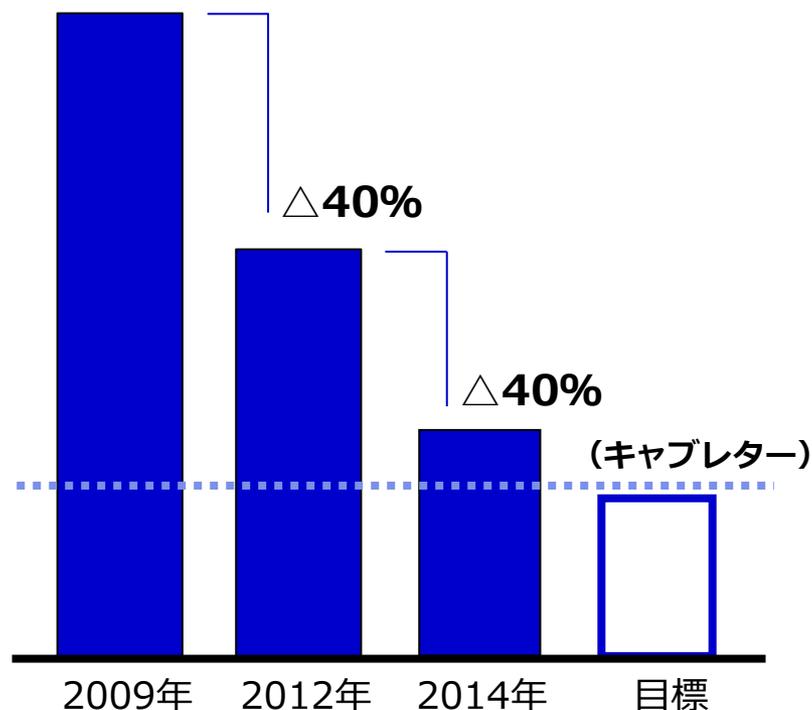
(集約：7 → 3エンジン)



重点コストダウン (76品目)

設計変更・理論値生産・調達先集約等

(事例) F I



主な取り組み 「モノ創りが変わる： グローバル・コストダウン」

累計進捗度（正味）

2014年：30%

2015年：60%（予想）、2016年：更に進める

- 1 プラットフォーム モデル開発・集約
2015年：40%（予想）
- 2 プラットフォーム 部品調達先集約
2015年：400=>195社
- 3 統合開発（図面、開発・調達プロセスを変える）
タイ・インド・インドネシア等、6拠点体制

主な取り組み 「構造改革」

■ 国内生産体制

- ・ 2009年 12工場・25ユニット
⇒2014年 8工場・16ユニット
⇒2015年 6工場・13ユニット（完了）
- ・ 構造改革効果 200億円（2009年比）

■ 欧州事業体制

- ・ 2014年 One Company
⇒2015年 One Entity（完了）
- ・ 構造改革効果 24億円（2011年比）

成長戦略

「豊かな生活」「楽しい移動」「人・社会・地球にやさしい知的技術」
を具体化する3つのテーマ

『広がるモビリティの世界を創る』

2輪から3輪・4輪へ、技術を広げる・お客様を広げる

『マリン・世界3兆円市場への挑戦』

エンジン・周辺機器＋艇体戦略による事業領域拡大

『個性ある多様性への挑戦』

ビジネスモデルを創る、お客様を広げる

1

経営概況

- ① 経営方向感
- ② 主な取り組み
- ③ 3つの成長戦略

2

事業概況

- ① **二輪車事業**
- ② マリン事業
- ③ 特機・他事業

事業概況：二輪車事業

世界市場における確固たるプレゼンス獲得

- 面を広げる、技術・お客様を広げる
- 売上高1.0兆円+、安定的な収益体質をつくる

1

「個性ある新商品」の市場投入進む

- ・中期商品計画（累計進捗60%）
- ・ブランドを輝かせる

2

モノ創りが変わる

- ・グローバルモデル
- ・次世代プラットフォームモデル

3

ヤマハらしいブランドプロモーション

- ・Dark Side of Japan、REV STATION 等

技術戦略 「コア技術を磨く」



高性能

高効率燃焼・伝達効率・MotoGP技術

軽量

コンパクトレイアウト・材料・生産技術

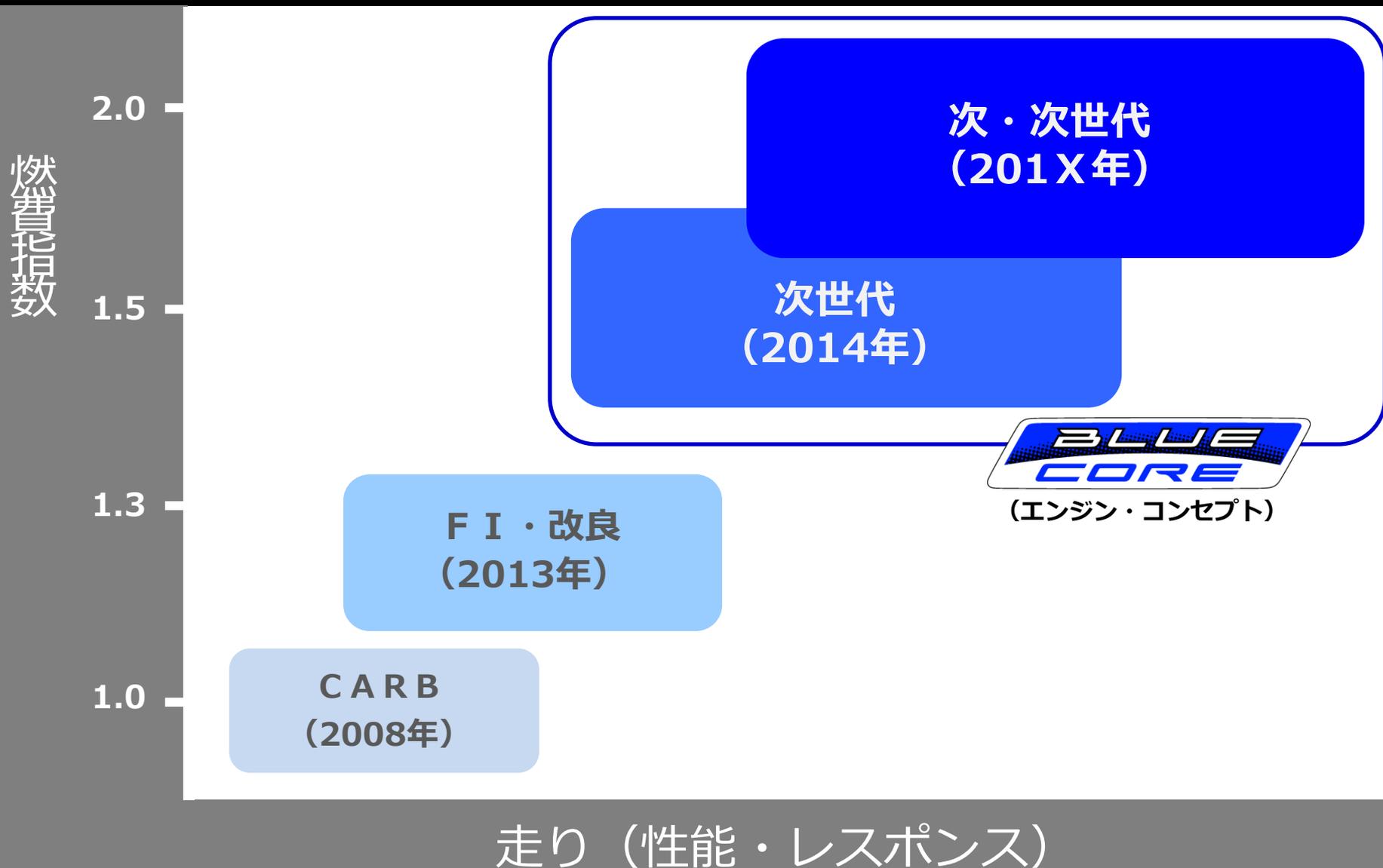


低燃費

FI技術・低ロス馬力・高トルクハイギアード



技術戦略 「低燃費+走りの楽しさ」

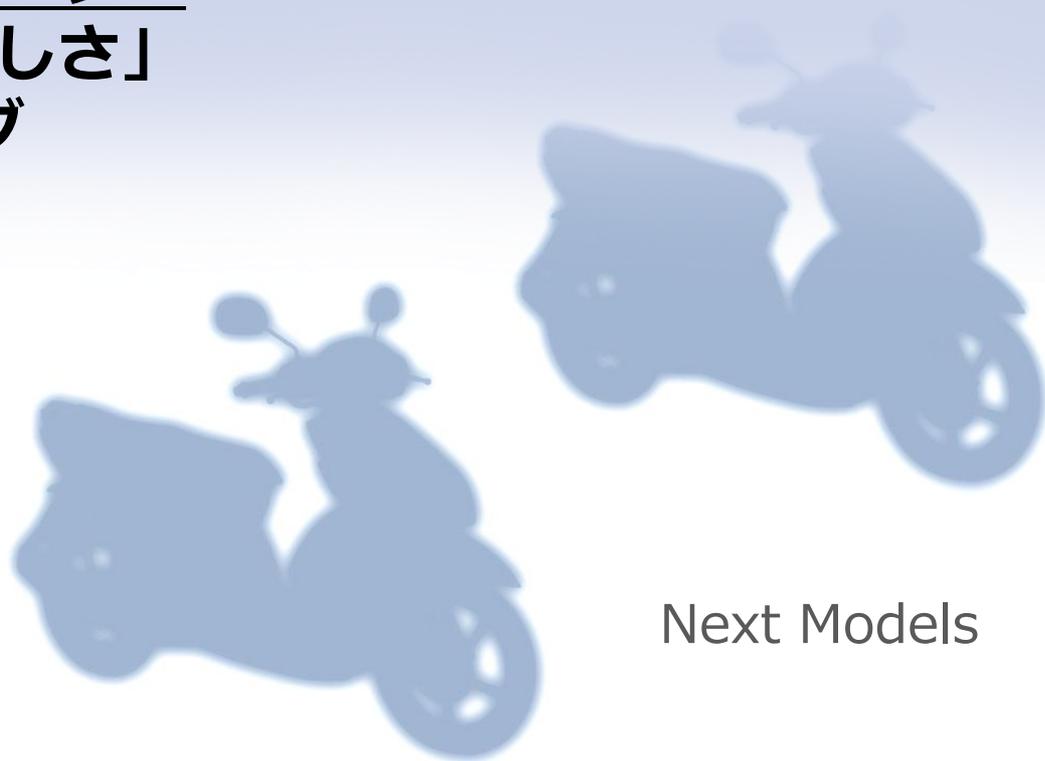




次世代アセアン・コンピューター
「低燃費」+「走りの楽しさ」
新しいスタイリング



「Nozza Grande」



Next Models

MAX

スポーツ・コミューティング
軽快な走り
上質なスタイリング、
新しいグローバルスタンダードへ



「TMAX」



「XMAX125/250/400」



「SMAX (Majesty S)」



Next Models



人機官能

トルク感・軽量感・スタイリング
ヤマハの個性的領域を創る



「MT-09」



Next Models



「MT-07」





Moto GP テクノロジー

スーパー・スポーツの価値、
グローバル・フラッグシップを創る



「R15」



「R25」



Next Models

LMW

第3の移動体

「二輪車の価値」、「軽快感」 + 「安定感」による走りの驚き



「TRICITY」



Next Models

1

経営概況

- ① 経営方向感
- ② 主な取り組み
- ③ 3つの成長戦略

2

事業概況

- ① 二輪車事業
- ② **マリン事業**
- ③ 特機・他事業

事業概況： マリン事業

『世界3兆円市場への挑戦』

- エンジン・周辺機器+艇体戦略
- 売上高3000億円+、高収益体質を作り続ける

1 先進国市場

- ・圧倒的競争力ある次世代ラインナップ
- ・米国艇体事業の拡大

2 新興国市場

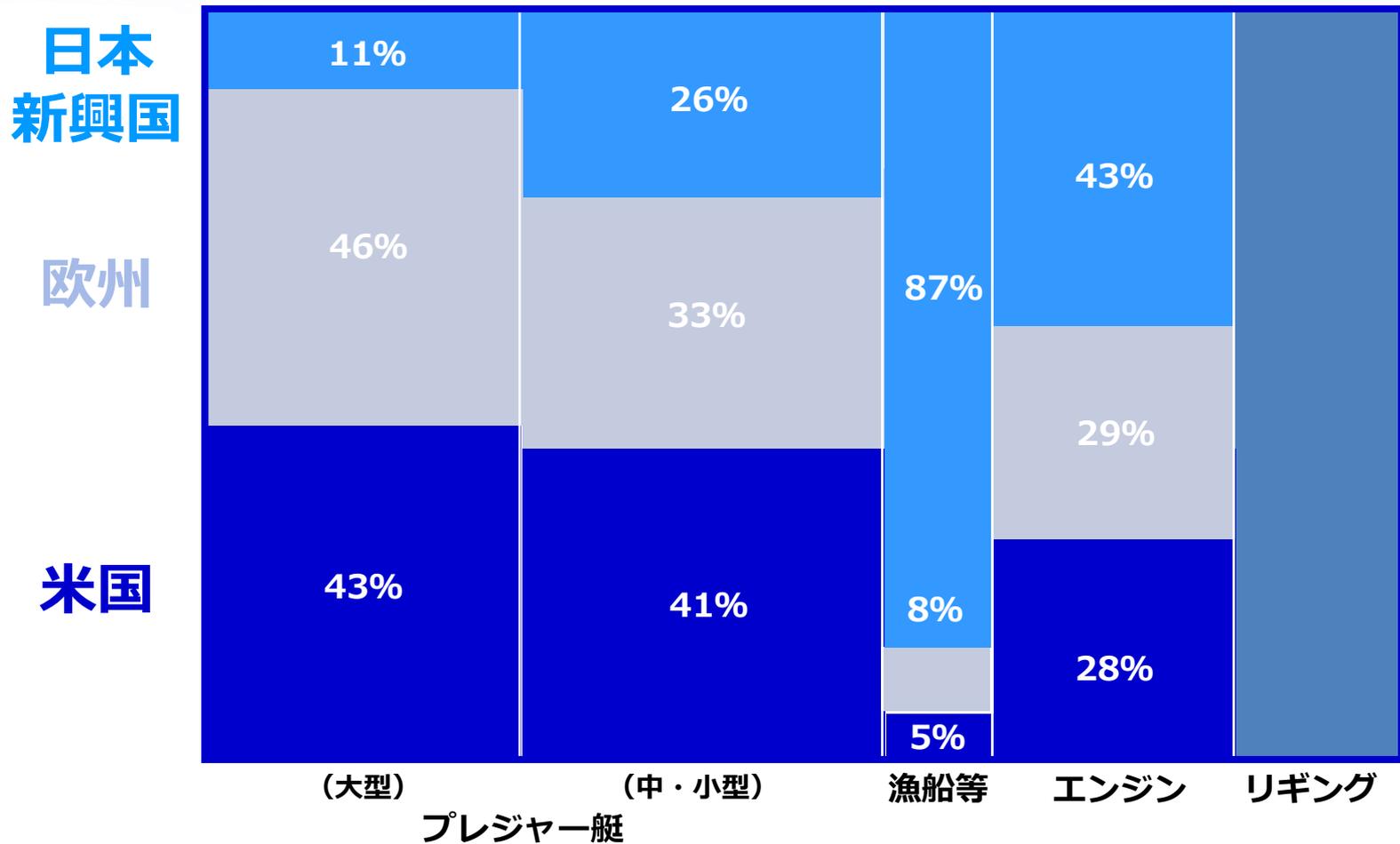
- ・ロシア/ブラジル 成長機会取り込み
- ・中国 プレジャー・漁船市場への挑戦

3 技術戦略

- ・パッケージング、信頼・耐久性技術、統合制御技術

マリン・世界3兆円市場

「エンジン・周辺機器+艇体戦略」による事業領域拡大> 3000億円
特に米国プレジャー市場・新興国漁業市場



次世代ラインナップ 「ゆるぎない信頼性」

		2012	2013	2014	2015	2016	2017
船外機	大型	HELM MASTER 	F200 VF165	F175 			
	中型			F115 			
	小型		F9.9	F4.5.6 (Thailand) 			
ウォータービークル		FX 		FX/FZ SVHO 	FX/VX  		
スポーツボート		21ft. 19ft. 	19ft.		24ft. 		

米国市場 「米国市場におけるボート生産」

YJBM

スポーツボート (4,300隻)



Skeeter

バスボート (2,000隻)



G3

アルミボート (5,400隻)



() 2014年生産隻数

米国市場 「スポーツボートの領域拡大」

ファミリー

「エンジン・周辺機器+艇体戦略」
によるボートینگ価値の多様化



26-31 Ft
(船外機)



19-21 Ft
(Jet)



14-16 Ft
(Jet)



10 Ft
(Jet)



パーソナル

小型

中型

中国市場 「現地生産による市場攻略」

生産合併事業：漁船



現状の中国漁船



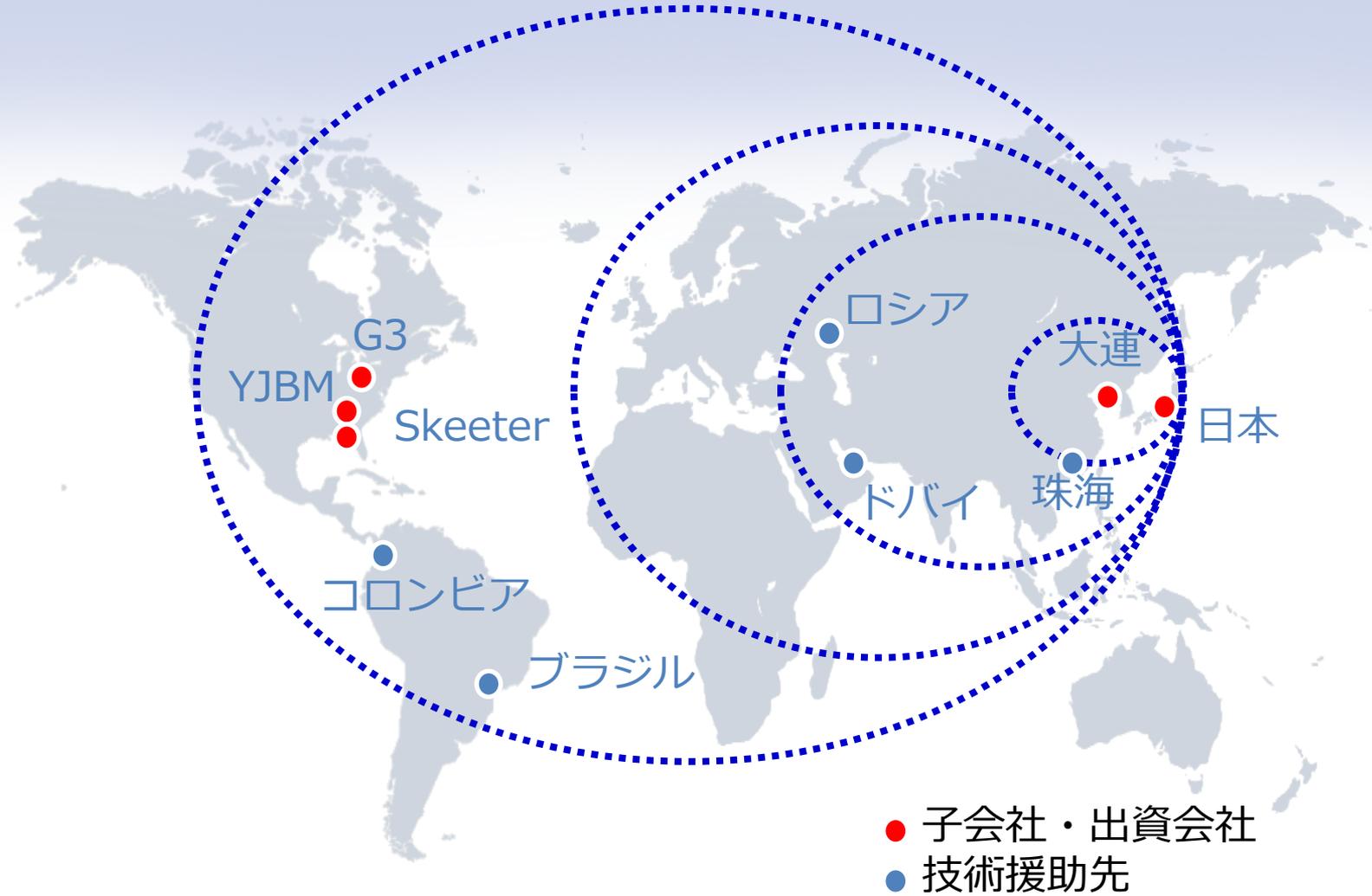
ヤマハ提案漁船

委託生産：プレジャーボート



27ftフィッシングボート

総合ボーディングビジネスを世界へ



1

経営概況

- ①経営方向感
- ②主な取り組み
- ③3つの成長戦略

2

事業概況

- ①二輪車事業
- ②マリン事業
- ③**特機・他事業**

事業概況：特機・他事業

『個性ある多様性への挑戦』

売上高3000億円+、安定的⇒高収益体質をつくる

ROV

- ①個性あるラインナップづくり
- ②市場シェア獲得

SPV

- ①モーター・バッテリー・制御技術の進化
- ②顧客ターゲット拡大

IM

- ①速度・精度・信頼性技術の進化
- ②顧客ターゲット拡大（高速領域）

UMS

- ①自律制御技術の進化
- ②新規市場開拓・事業化（日本・米国・豪州等）

ROV (Recreational Off-Highway Vehicle)

個性あるラインナップを創る

マルチパッセンジャー
ユーティリティから幅広いスポーツへ



「VIKING VI」



「VIKING」



Next Models

PAS

PASの世界を広げる 実用から幅広いスポーツへ



「YPJ-01」



「E-Kit/MTB仕様」

EV

EV・コア技術を磨く 環境性能・実用性能の両立



「E-VINO」

IM

コア技術を磨く 世界の高速機市場へ



「Z:ta」
世界最速クラスを実現



「Z:LEX」
高速性能・汎用性能を両立

UMS (Un-Manned System)

コア技術を磨く
新しいビジネスモデルを創る
日本・韓国・豪州から米国へ



「FAZER」



YAMAHA

Revs Your Heart

Rev - エンジンの回転を上げるように。
心躍る瞬間、そして最高の感動体験を、
YAMAHAと出会うすべての人に届けたい。